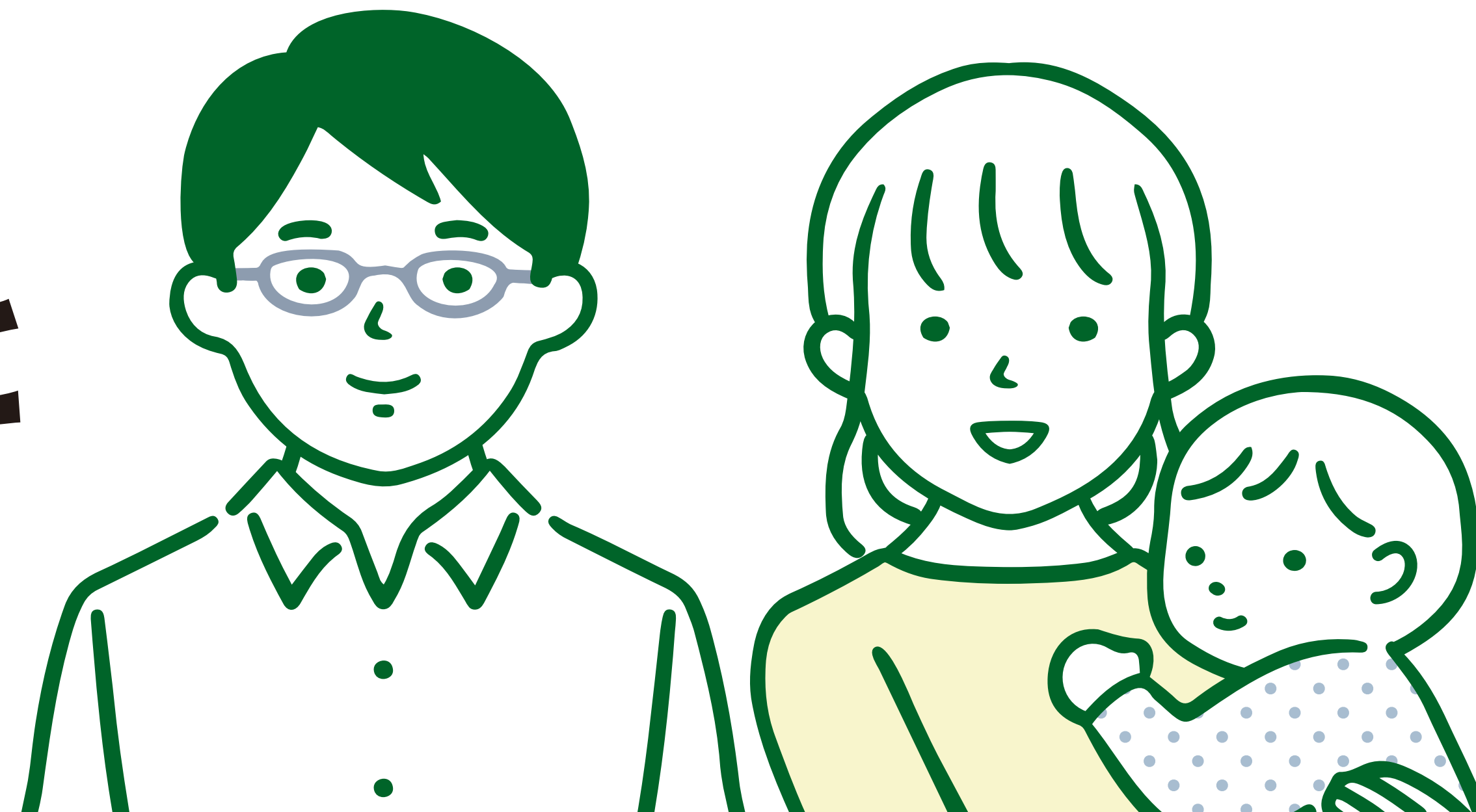


現役世代と

一緒に創るのは



圧倒的に子育てしやすい芦屋



1

こども家庭・保健センターの設置

こどもまんなか社会の
実現に向けて、
予防から自立まで
一貫した支援の実現

■ 経済的支援

妊娠中・出産後（4ヶ月迄）

それぞれ **5万円** 給付

■ 伴走型支援

地域担当の保健師が

妊娠から産後まで寄り添う



妊娠出産子育て支援事業



こども家庭・保健センター
「あしふく」



2

子ども医療費助成の拡充

子ども医療費助成は
18歳までのすべての子どもに
所得制限なしで
2024年内に拡充したい

【検討内容（案）】

中学生まで
（所得制限あり）

窓口負担：無料



18歳までの
全ての子ども
（所得制限なし）

拡充対象者には
窓口負担の上限額設定

対象者の大幅拡充を検討しています

高校生

約2,700人

中学生まで

約7,000人

約12,200人

これまで

検討中の案

対象者2.1倍、受診者99%が負担減

休日・夜間受診の見直し

お薬手帳の持参

ジェネリック医薬品の活用

適正受診へのご協力をお願いします

未来世代と

一緒に創るのは



最高の学びができる芦屋

最もこだわりたい「教育」
教育は、未来を創る仕事



ビジョン「教育大綱」を策定



すべての中学校で意見交換

Philosophy | どんな市民を目指すか

自分と地球の未来を、

探究と創造を通じて切り拓く市民

Concept | どんな教育を目指すか

「ちようどの学び」と

それを支える環境づくり



ちようどの内容、
ちようどの学び方

一人ひとりに合う
学びを見つける

先生の負担を

減らす

働き方改革

生徒と向き合う

伴走に集中できる



まずは、市役所が誰よりも
子どもたちの可能性を信じる



2

東京大学公共政策大学院との 連携協定

Dialogue

みなさまとの対話

3



つくりたいのは、
要望の場ではなく
対話の場

お願いしたいこと

- 話は短めに！（話しすぎに注意しましょう）
- 違って当たり前！（否定より提案を）
- みんなで学び合う！（知らなくて当たり前）
- 話をつなげる！（対話を楽しみましょう）

參考資料

こども家庭・保健センター設置

こども
まんなか
社会へ！

令和5年4月1日に「こども家庭・保健センター」を開設しました

基本理念

**こどもまんなか社会の実現に向けて、
予防から自立まで一貫した支援の実現**

- ◎ 妊娠期から出産、育児、成人・高齢者に至るまで、より早期に問題を把握し支援に繋ぐ、一貫した切れ目のない支援を実現します。
- ◎ 予防的なかかわりを重視し、重層的な支援で、確実に必要な支援が届くようアウトリーチ型支援に取り組みます。

妊 娠 期

相談やサポート支援で
安心なマタニティライフ
妊娠出産子育て支援事業 **NEW**



乳 児 期

親子の絆と豊かな心を
育むお手伝い



幼 児 期

交流を通して楽しく
子育て



小学・中学 ・高校生

こどもたちが
安全で安心して過ごせる
居場所づくり

成人・高齢者

市民の健康づくりを
推進



子どもの医療費助成の拡充

来年度からの制度拡充を検討しています！

【検討内容（案）】

中学生まで
（所得制限あり）

対象者
拡充

18歳までの
全ての子ども

窓口負担：無料

窓口負担：あり※
（上限額設定）

※拡充対象者



目指す
もの

芦屋市の未来を担うすべての子どもたちの健全な成長
圧倒的に子育てしやすい芦屋

【現在】

18歳までの
すべての子どもを
助成対象に

【拡充案】

	0歳	1歳~ 中学生	高校生
所得基準 以上	通院・入院 無料	助成なし (2割・3割負担)	
所得基準 未満			



	0歳	1歳~ 中学生	高校生
所得基準 以上	通院・入院 無料	助成対象へ! (窓口負担あり) ※1回上限額設定	
所得基準 未満			

★助成拡充にあたってのポイント

小児医療が
逼迫しない
ように

財政的に
継続して
いけるように



適正受診を 心掛けましょう

休日・夜間
受診の見直し

お薬
手帳

ジェネリック
医薬品

芦屋市教育大綱 Ask what we can create for Ourselves, Ashiya, and the Globe.

Philosophy (どんな市民を目指すか?) : 自分と地球の未来を、探究と創造を通じて切り拓く市民

- 大きな変化に直面する社会でウェルビーイングに生きるためには、一人ひとりが**未来を切り拓く力**を育む必要がある。
- 未来は、**自分で問題を発見し深める(探究)**、**自分なりの価値を創り出す(創造)**の繰り返しによって切り拓かれる。
- **ともに目指すのは、自分、芦屋、日本、そして地球の未来をも切り拓ける市民になること**である。

そのために

Concept (どんな教育を目指すか?) : 「ちょうどの学び」とそれを支える環境づくり

- 探究と創造の循環を加速するため、**自分の特性や理解度等を踏まえた、公正で最適な「ちょうどの学び」**を実現する。
- 一人ひとりの未来を創る「学び」の**支え手たる教師が、プロとしての誇りと実力を持ち仕事ができる環境**を創る。
- **市民は、地域の一員として「学び」を支えると同時に、生涯「学び」続け、よりよい芦屋を共創する同志**である。

そのために

Contents (具体的に何をするか?) : 児童生徒・教師・市民、それぞれにとっての「ちょうどの学び」

児童生徒

【個別最適化】

教師の伴走とAI・ICT教育支援ツールの活用により、個性特性や興味関心・理解度等に応じて公正に個別最適化された「**ちょうどの学習内容・学び方**」を実現

【対話・協働・インクルーシブ】

異なる個性や特性・背景を持つ仲間と**対話し、協働的に学び合う環境**を創造

【探究・STEAMS】

自らへの問いから始まる**探究学習・STEAMS教育**で学びへの意欲を引き出す

【主体性】

自ら**学びをデザイン**することで、「**なぜ学ぶのか**」に対する**納得解**を得る
校則改正をはじめ、**自分たちの社会を自分たちで良くする成功体験**を支援

【国際教養力】

国際文化住宅都市を担う市民に必須の**言語力・文化力・情報リテラシー力**向上

【誰ひとり取り残さない】

不登校や学習障がい・発達障がい等の**学びづらさ**を抱えた児童生徒に寄り添う

教師

【児童生徒により向き合える環境】

児童生徒により向き合える環境を創るための、**部活動指導の地域移行や外部人材・ICT教育支援ツール等**の活用による**事務作業負担の整理・軽減**

【主体性・専門性】

プロとしての**実力・専門性向上**のための**主体的な探究・創造**を支援

市民

【地域と学校の共創】

学校運営協議会を基盤とし、各地域で**スポーツ文化活動・生涯学習**を充実

【市民が主役の芦屋づくり】

芦屋の**歴史文化や市民の経験**を次世代に継承し、よりよい芦屋に向けて**対話する世代を超えた場・機会**を設け、「**探究**」と「**創造**」を実践